

サムシングホールディングス株式会社 (証券コード:1408) 2016年12月期 決算説明会



- ◆ 会社概要・事業内容
- ◆ 2016年12月期決算内容
- ◆ 2017年12月期予算
- ◆ 2017年～2019年中期経営計画
- ◆ 参考情報

A large, light orange, stylized 'S' graphic that serves as a background for the main text.

会社概要 事業内容

事業内容	地盤改良事業 保証事業 地盤システム事業 海外事業 その他事業
上場市場	東京証券取引所JASDAQ ➤ 地盤調査、改良を主業とする会社では唯一の上場企業
設立	2000年(前身の(株)サムシングは1997年設立)
グループ会社数	10社
従業員数	単体23名、連結359名(2016年12月末時点)
資本金	484,820千円(2016年12月末時点)
売上高	10,006,910千円(グループ連結、2016年12月期)

地盤改良事業

- 地盤調査 ➤(株)サムシング
- 地盤改良工事 ➤(株)アシスト
 ➤(株)サムシング四国

海外事業

- 東南アジアでの地盤改良
 - 住宅建材の販売、住宅建設
- SOMETHING HOLDINGS ASIA
➤ SOMETHING VIETNAM
➤ JAPANEL HOME (CAMBODIA)

当社の強み

- 地盤の技術力
- 地盤データの透明化
- 事業の多角化

保証事業

- 地盤保証
 - 住宅完成保証
- (株)GIR
➤Something Re

地盤システム事業

- G-Web systemの ➤ジオサイン(株)
 レンタル、販売

◆ 地盤調査とは？

- 住宅や商業施設等を建設する前に地盤の強度や土質を調査

◆ 当社の強み

- 独自開発の調査機や、経験が蓄積された地盤解析等の技術力
 - 独自のボーリングマシン「地盤王ホリ・ススム」を開発



独自開発のボーリングマシン
「地盤王ホリ・ススム」

◆ 地盤改良とは？

- 地盤調査の結果を基に、建物の重みに耐えられるよう地盤を補強

◆ 当社の強み

- 多くの工法を研究開発
 - 液状化対策ができるエコジオ工法
 - 店舗やアパートの工事に効率の良いコラムZ工法



「エコジオ工法」

- 戸建住宅だけでなく、店舗・アパートにも拡販
- シノケングループと資本業務提携(2016/9/12開示)

シノケングループとの資本業務提携 (2016年9月12日プレスリリース)

資本提携	発行株式	<ul style="list-style-type: none">発行株式数875,000株発行価額@340円調達金額297.5百万円
	持株比率	<ul style="list-style-type: none">シノケングループ: 21.27% (第2位株主)
業務提携	国内	当社の地盤改良等をシノケングループのアパート・マンション販売に活用
	海外	WPC建材や地盤改良をシノケングループが東南アジアで行うマンション開発等に活用
メリット		<ul style="list-style-type: none">シノケングループへの販売先の拡大国内、海外への投資資金の確保

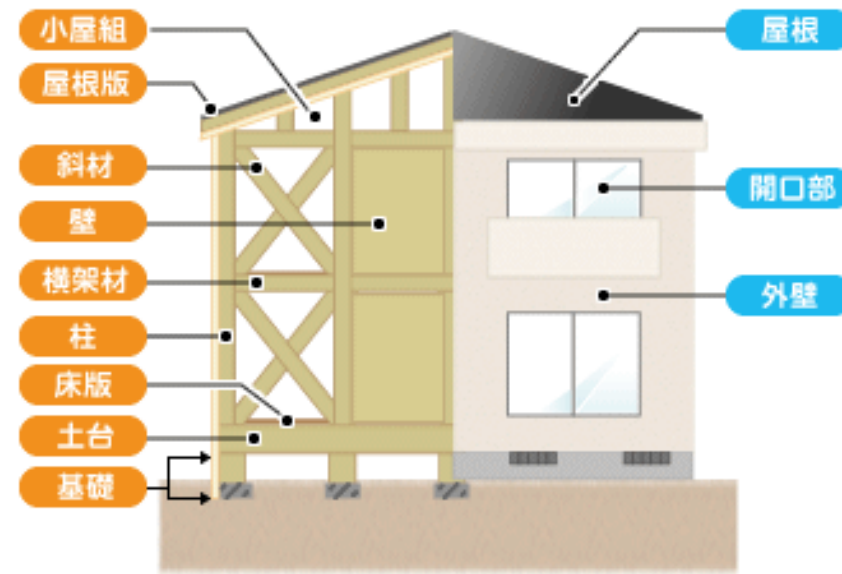
◆ 地盤保証とは？

- 地盤沈下が起きた場合、保証を行う「THE LAND」
(背景: 既存の法律では地盤が原因の事故は補償されない)

◆ 当社の強み

- サムシンググループの支店ネットワークと、認定店による広い販売網
 - 地盤保証実績は累計6万棟以上

【木造(在来軸組工法)の戸建住宅の例】
2階建ての場合の骨組(小屋組、軸組、床組)等の構成



瑕疵担保責任保険がカバーする範囲

◆ 地盤システムとは？

- 地盤調査・改良データを透明化する独自のG-Web system

◆ 当社の強み

- GPS・タイムスタンプを用いて場所と時間を記録
- クラウドサーバーを用いたデータ保管



- 地盤データの信頼性に対するニーズの高まり
→ 大手住宅メーカーからの受注増加
- LIXILグループとの資本業務提携 (2016/4/11開示)

LIXILグループ子会社のジャパンホームシールド(株)と 子会社ジオサイン(株)の資本業務提携(2016年4月11日プレスリリース)

資本提携	発行株式	<ul style="list-style-type: none"> 発行株式数250株 発行価額@150,000円 調達金額37.5百万円
	持株比率	<ul style="list-style-type: none"> 当社51.6% 兼松日産農林25.8%、 ジャパンホームシールド20.0% オリックス2.6%
業務提携		<ul style="list-style-type: none"> ジャパンホームシールド(株)が行う地盤調査・改良工事にジオサインの「G-Web system」を使用する。
メリット		<ul style="list-style-type: none"> ジオサインの売上拡大 「G-Web system」のスタンダード化

ベトナムでの地盤調査・改良工事

- 地盤が弱いベトナムで河川の護岸工事等に取り組む
- 国内で培った技術を東南アジアで展開



河川での試験施工

WPC製造販売・建築請負

- 日本の建材メーカーと提携し、WPC(プレキャストコンクリートパネル)住宅建材を製造・販売
- カンボジアにてWPC住宅を建築請負

2016年8月カンボジアにWPC建築を行う
新会社を設立(2016/6/24開示)

JAPANEL HOME (CAMBODIA) CO.,LTD.設立 (2016年6月24日プレスリリース)

事業内容

- WPC住宅建築請負・関連事業をカンボジアにおいて行う

形態

- 現地デベロッパーとの合弁会社

案件見込み

- 2017年からカンボジアの首都
プノンペン郊外にて建築開始予定



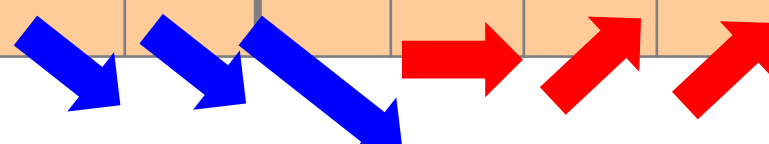
タウンハウス現場写真

A large, semi-transparent orange stylized 'S' shape serves as a background for the title text.

2016年12月期 決算内容

- 売上高は増加したが、粗利率が低下して営業利益は微増
- 粗利率は上期において2015年下期の低下傾向が継続
しかし、2Q以降の改善策が奏功し、2Q以降は改善

	2014年				2015年				2016年			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	2,067	2,368	2,300	2,539	2,036	2,522	2,347	2,555	2,146	2,475	2,549	2,834
売上総利益	477	652	606	669	519	668	573	609	418	614	673	701
営業利益	△106	76	70	124	△82	50	0	53	△178	43	108	116
売上総利益率	23.1%	27.5%	26.4%	26.4%	25.5%	26.5%	24.4%	23.9%	19.5%	24.8%	26.4%	24.7%



連結実績(年度・セグメント別)

単位:百万円		2014年		2015年		2016年		
		金額	売上比	金額	売上比	金額	売上比	前年比
売上高	地盤改良事業	8,815		8,991		9,504		5.7%
	保証事業	174		164		175		6.7%
	地盤システム事業	136		128		195		52.3%
	海外事業	34		92		38		△58.7%
	その他事業	114		84		93		10.7%
	連結	9,275		9,461		10,006		5.8%
売上総利益	地盤改良事業	2,271	25.8%	2,237	24.9%	2,199	23.1%	△1.7%
	保証事業	123	70.7%	118	72.0%	111	63.4%	△5.9%
	地盤システム事業	△33	-	13	10.2%	46	23.6%	253.8%
	海外事業	△3	-	△4	-	0	0.0%	-
	その他事業	47	41.2%	42	50.0%	50	53.8%	19.0%
	連結	2,405	25.9%	2,370	25.1%	2,407	24.1%	1.6%
営業利益		164	1.8%	22	0.2%	90	0.9%	309.1%
経常利益		187	2.0%	△14	-	77	0.8%	-
当期純利益		48	0.5%	△327	-	11	0.1%	-

- ・売上高は増加したが粗利率は低下し、粗利額は微減
- ・粗利率は上期において2015年下期の低下傾向が継続
- ・しかし、2Q以降の改善策が奏功し、2Q以降は改善

【要因】

◆売上高増加要因

- 大型物件の売上増加

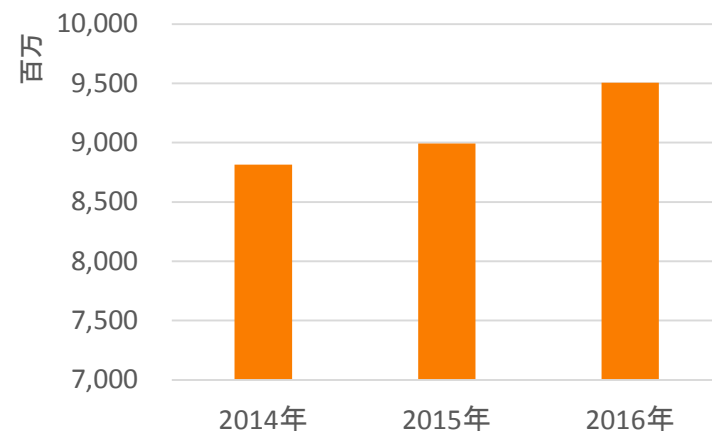
◆粗利率低下要因

- 大型物件の積算体制に課題
- 稼働率の低下(下期は改善)

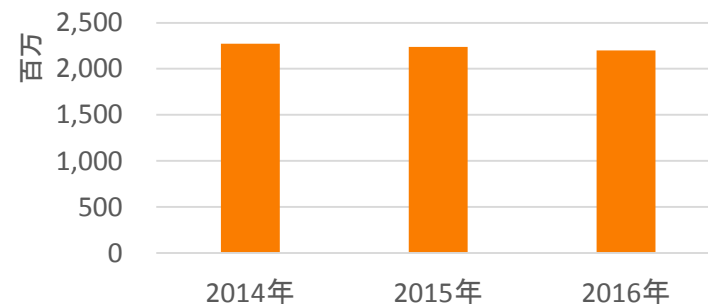
◆販管費削減要因

- 人員配置の効率化

地盤改良事業売上高



地盤改良事業売上総利益額



【地盤改良事業】粗利率の推移

- ・粗利率は上期において2015年下期の低下傾向が継続
- ・しかし、2Q以降の改善策が奏功し、2Q以降は改善

◆ 上期の粗利率低下要因

- 大型物件の積算体制に課題
- 稼働率の低下

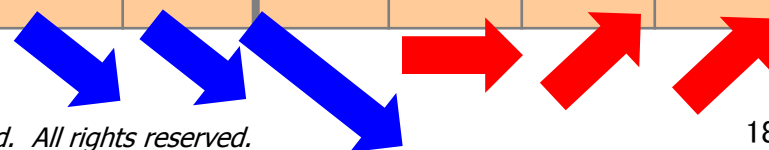


◆ 2Q以降の改善策

- 積算体制の確立
- 工程管理の徹底

株式会社サムシング業績推移

	2014年				2015年				2016年			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	1,832	2,178	2,110	2,354	1,869	2,319	2,171	2,376	1,981	2,314	2,362	2,636
売上総利益	350	535	492	563	406	541	465	495	327	496	541	579
営業利益	△91	73	71	95	△55	61	16	50	△123	46	100	99
売上総利益率	19.1%	24.6%	23.3%	23.9%	21.7%	23.3%	21.4%	20.8%	16.5%	21.5%	22.9%	22.0%



◆件数・売上ともに前期比増加

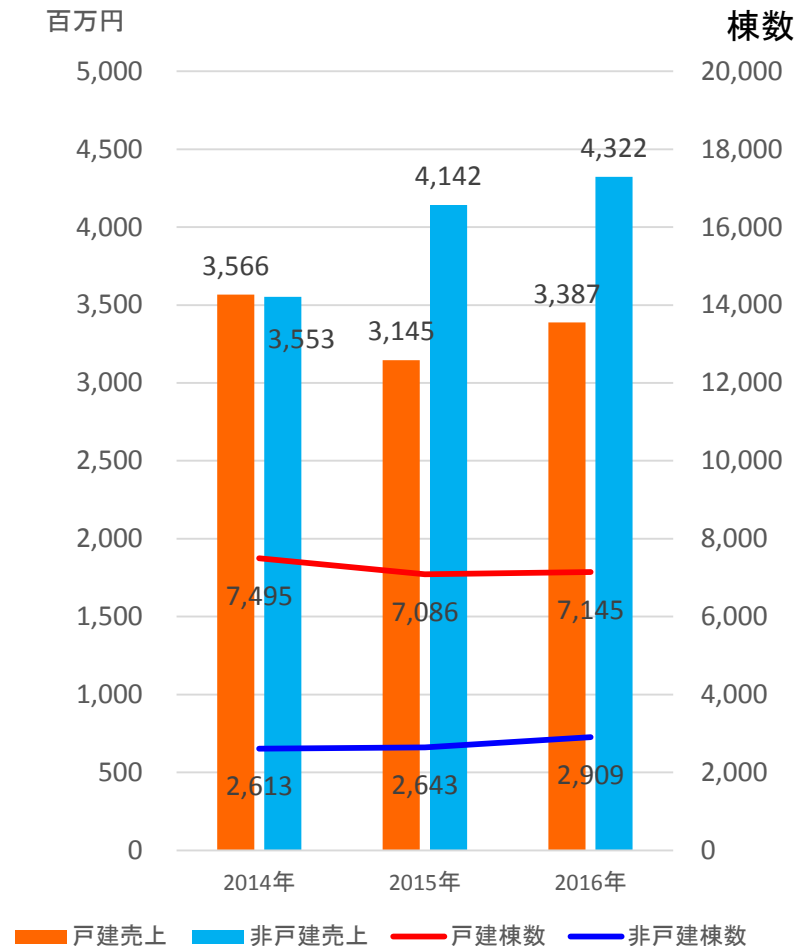
- 2015年:4,142百万円、2,643件
- 2016年:4,321百万円、2,909件
- 2014年と比較し大きく増加
(+800百万円)

◆粗利率も戸建住宅より高い

- 戸建:22.1%
- 非戸建:25.0%

◆大型物件の種類

- 店舗が前期比+16.7%と増加



◆その他ボーリング調査

- 672百万円(前期比+192百万円)
- 大型物件への営業注力が奏功
- 大口顧客からの受注増加による単価上昇

◆コラムZ工法が増加

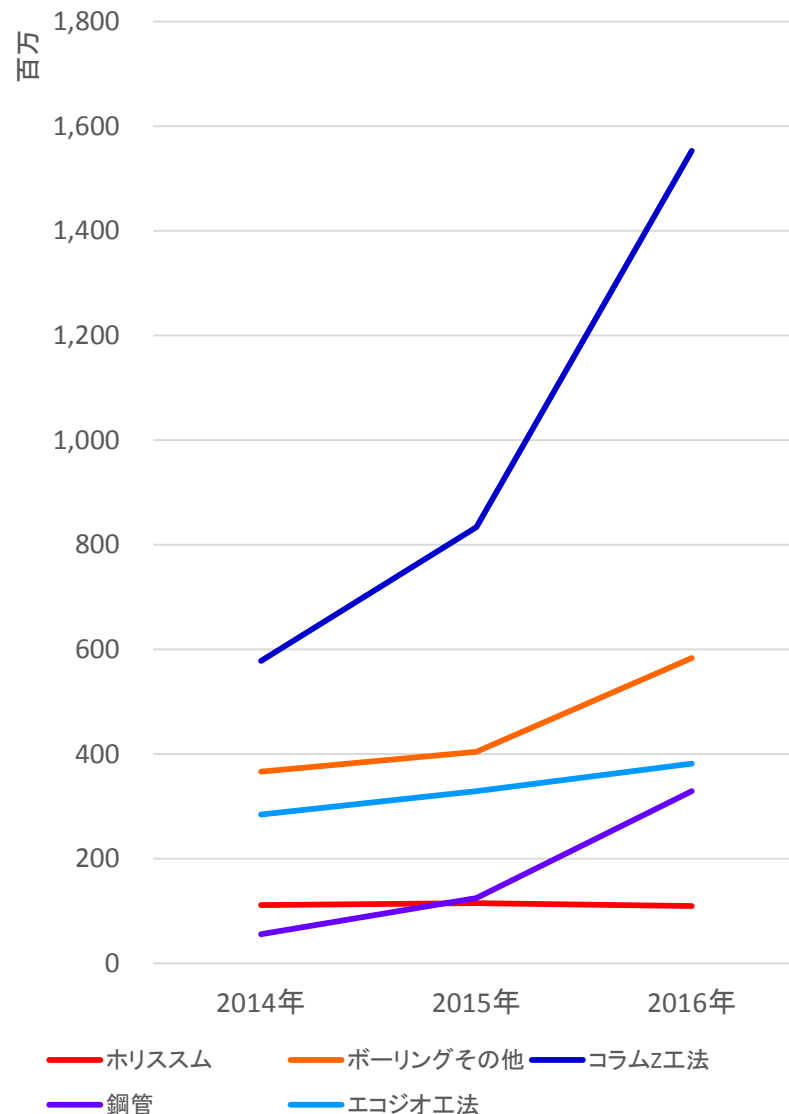
- 1,553百万円(前期比+86.3%)

◆鋼管杭

- 335百万円(前期比+189百万円)
- 従来の鋼管杭より施工効率が良いTGパイルの受注増加:51百万円

◆エコジオ工法

- 381百万円(前期比52百万円)
- 営業注力が奏功



- ・売上高・粗利・営利すべて良好
- ・JHSとの提携や大手ハウスメーカーへの拡販が寄与

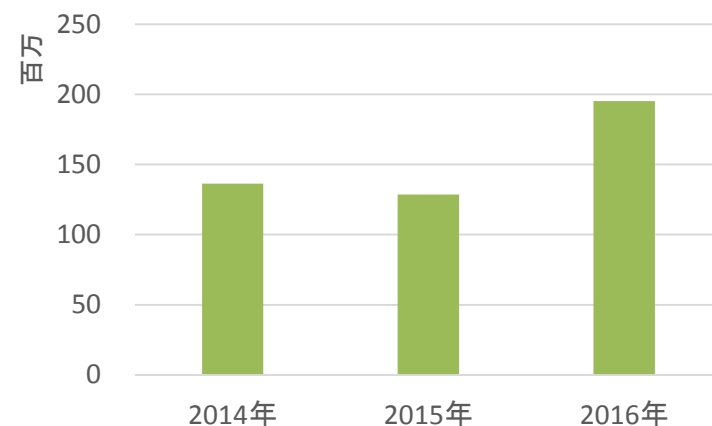
【要因】

◆ ジャパンホームシールド（LIXIL子会社）との資本業務提携

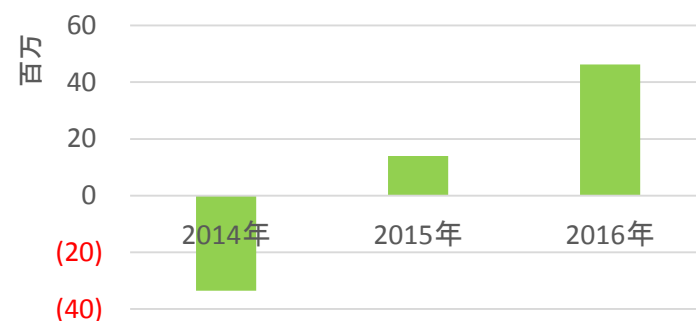
- 2015年に発生した杭データ問題により地盤データ信頼性の向上ニーズが高まっているため
- JHSの地盤調査と地盤改良にG-Webを導入（スタンダード化の推進）

◆ 大手ハウスメーカーへの拡販が寄与

地盤システム事業売上高



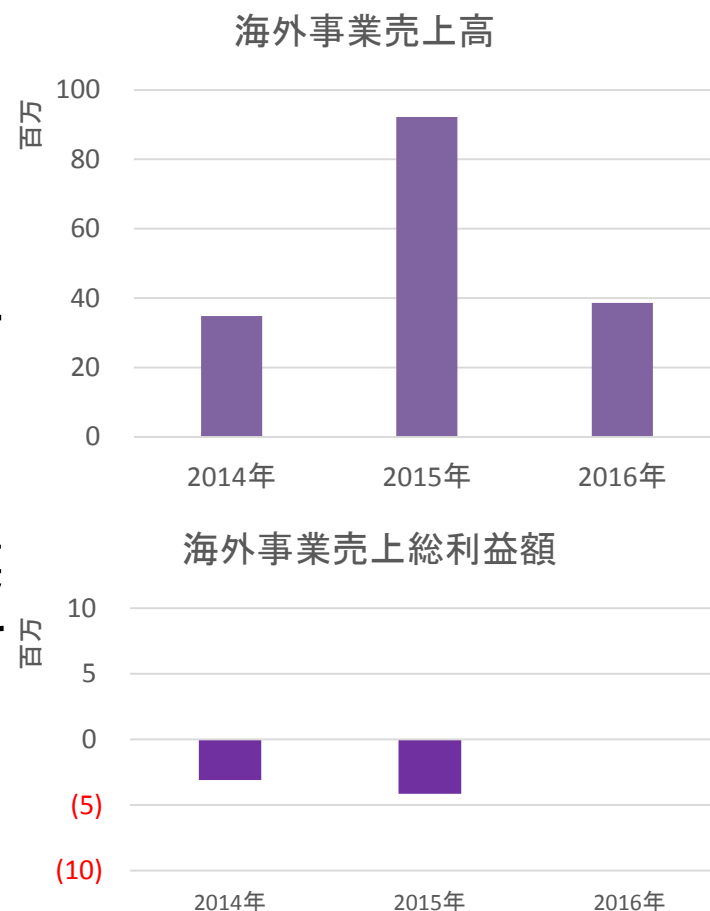
地盤システム事業売上総利益額



- Nihon Panel Co.,Ltd.を清算したため、売上高・粗利が減少
- 地盤改良事業は護岸工事が4箇所完了

【要因】

- ◆ Nihon Panel Co.,Ltd.の清算
 - 住宅用壁材GRCを製造
 - 投資回収及び採算性を確保することが困難なため
- ◆ 護岸地盤改良工事が4箇所完了
 - ホーチミン工科大学、JICAとの協業
 - 地盤改良工事拡販の足掛かりとする
- ◆ カンボジアに新会社を設立
 - WPC住宅の建設請負



◆ 配当の内容

	決定額	直近の配当予想 (平成28年2月15日公表)	前期実績 (平成27年12月期)
基準日	平成28年12月31日	同左	平成27年12月31日
1株当たり配当金	0円00銭	未定	0円00銭
配当金の総額	0円00銭	未定	—
効力発生日	—	未定	—
配当原資	—	未定	—

◆ 理由

当社は株主の皆様に対する利益還元を経営課題の一つとして認識し、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、期末配当として年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としてまいりました。

しかしながら、平成28年2月15日公表させて頂きましたとおり、平成27年12月期につきましては海外事業一部撤退による損失の計上により配当は見送ることとし、平成28年12月期の期末配当予想につきましては未定とさせて頂きました。

この度、平成28年12月期個別業績の当期純利益が157百万円の見込みとなります。しかしながら、グループ全体の将来の事業展開と、経営体質・財務体質強化の観点より、誠に遺憾ながら、平成28年12月期の剰余金の配当につきましても引続き見送ることといたしました。

た。

A large, semi-transparent orange 'S' watermark is centered in the background of the slide.

2017年12月期の見通し

・地盤改良事業の更なる収益力強化と海外事業の早期黒字化を目指す

	単位:百万円	2016年実績	利益率	2017年予算	利益率	前年比
売上高	地盤改良事業	9,504		10,101		6.3%
	保証事業	175		213		21.1%
	地盤システム事業	195		166		△14.5%
	海外事業	38		121		216.0%
	その他の事業	93		112		21.3%
	連結	10,006		10,716		7.1%
売上総利益	地盤改良事業	2,199	23.1%	2,618	25.9%	19.1%
	保証事業	111	63.6%	89	42.2%	△19.6%
	地盤システム事業	46	23.7%	31	19.1%	△31.0%
	海外事業	0	0.0%	30	25.0%	173599.3%
	その他の事業	50	54.1%	64	56.7%	27.2%
	連結	2,407	24.1%	2,834	26.5%	17.8%
営業利益	90	0.9%	130	1.2%	44.4%	
経常利益	77	0.8%	109	1.0%	41.3%	
親会社株主に帰属する当期純利益	11	0.1%	6	0.1%	△44.8%	

・地盤改良事業の更なる収益力強化

◆稼働率の向上を維持

- 2016年2Q以降は好調
- 工程管理部を新設

◆大型物件の積算管理を継続

◆大型物件への注力を継続

◆押し出す工法

- コラムZ
- 鋼管杭
- エコジオ
- 地盤王パワーベースZ
 - ・ 建物の資産価値を下げないメリットがある
 - ・ 基礎着工までの期間を短縮可能

・海外事業の早期黒字化を目指す

◆カンボジアにおけるWPC住宅建設

- 2016年8月にJapanel Home (Cambodia)を設立
- カンボジア国首都プノンペン郊外において工事開始

◆ベトナムにおける地盤調査・改良工事

- 2016年12月までの護岸工事案件を足がかりに受注活動を行っていく

A large, semi-transparent orange 'S' shape serves as a background for the title text.

2017～2019年 中期経営計画

2017-2019年度中期経営計画

		2016年実績			2017年予算		2018年目標		2019年目標	
		金額	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
売上高	地盤改良事業	9,504	10,101	6.3%	10,808	7.0%	11,532	6.7%		
	保証事業	175	213	21.1%	223	5.0%	234	5.0%		
	地盤システム事業	195	166	79.2%	183	10.0%	201	10.0%		
	海外事業	38	121		164	35.0%	222	35.0%		
	その他事業	93	112		118	5.0%	124	5.0%		
	連結	10,006	10,716	7.1%	11,499	7.3%	12,316	7.1%		
売上総利益	地盤改良事業	2,199	2,618	19.1%	2,824	7.9%	3,013	6.7%		
	保証事業	111	89	△19.6%	94	5.0%	99	5.0%		
	地盤システム	46	31	△36.6%	35	10.0%	38	10.0%		
	海外事業	0	30	173599%	41	35.0%	55	35.0%		
	その他事業	50	64	27.2%	67	5.0%	70	5.0%		
	連結	2,407	2,834	17.8%	3,062	8.0%	3,277	7.0%		
営業利益		90	130	44.4%	242	86.4%	331	36.4%		
経常利益		77	109	41.3%	222	104.2%	310	39.7%		
親会社株主に帰属する当期純利益		11	6	△44.8%	53	713.2%	71	34.5%		

A large, semi-transparent orange 'S' shape serves as a background for the main title text.

2016年実績 参考情報

1. 2016年12月期 通期 (2016年1月1日～12月31日)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する 当期純利益 (百万円)	1株当たり当 期純利益(円)
前回発表予想(A) (2016年11月14日発表)	10,103	112	83	48	14.11
今回発表実績(B)	10,006	90	77	11	3.42
増減額(B-A)	△96	△22	△6	△37	—
増減率	△1.0%	△19.8%	△7.9%	△75.8%	—

2. 通期 連結業績予想と実績の差異の理由

当事業年度の営業利益・経常利益に付きましては、海外事業に於ける予想していた売上未達が影響し、発表した予想数値を下回る見込みであります。

そして、親会社株主に帰属する当期純利益に付きましても、上述のとおり海外事業の売上未達による当期純損失が予想数値を上回り、株式会社サムシングの業績が大幅に改善したことにより、計画以上に同社の繰越損失が減少し、法人税等調整額が増加したため、連結上の当期純利益は予想に対し減少となる見込みであります。

1. 2016年12月期 通期 (2016年1月1日～12月31日)

	売上高 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり当 期純利益(円)
前回発表予想(A) (平成28年2月15日発表)	567	26	26	8.18
今回発表実績(B)	568	157	157	45.39
増減額(B-A)	0	131	130	—
増減率	0.1%	489.6%	493.4%	—

2. 通期 個別業績予想と実績の差異の理由

当事業年度の経常利益・当期純利益につきましては、販売費及び一般管理費における各種費用削減と、予定しておりました個別業績における繰越損失の解消に向けた子会社からの配当金受け入れ増額が奏功しました。その結果、経常利益及び当期純利益が予想に対し増加見込みであります。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">地盤改良</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 売上高上がったが粗利率低下で粗利額横ばい ◆ 大型物件の売上増加 ◆ 大型物件の積算体制に課題 ◆ 稼働率の低下(下期は改善) 	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">地盤システム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 売上高・粗利・営利すべて良好 ◆ JHSとの資本業務提携の効果 ◆ 外部環境の向上 ◆ 大手ハウスメーカーへの拡販が寄与
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">海外</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ NPを清算したため、売上高・粗利が減少 ◆ 地盤改良事業は護岸工事が4箇所完了 	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">保証</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 売上はLAND好調で上がったが沈下修正で原価が上がり粗利は減少 ◆ 販管費も圧迫して営利も減少

2016年12月末連結貸借対照表

(単位:百万円)	2014年	2015年	2016年	
	12月末	12月末	12月末	12月末前期比
流動資産	3,873	4,153	4,359	205
固定資産	1,386	1,289	1,175	△113
資産合計	5,259	5,443	5,539	96
流動負債	2,724	3,324	3,352	27
固定負債	1,208	1,117	840	△276
負債合計	3,932	4,441	4,192	△249
純資産合計	1,327	1,001	1,347	345
負債純資産合計	5,259	5,443	5,539	96

ご清聴ありがとうございました。

IR担当窓口

免責事項

本資料に記載されている計画、見通し、戦略は、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。従いまして、将来の事業戦略・業績見通しに関する情報に全面的に依拠して、投資判断を決定することは避けるようお願いします。

また、本資料に記載されている当社および当社グループ以外の企業などにかかわる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません。

サムシングホールディングス株式会社

部署：管理本部

TEL：03-5665-0840

Mail：ir@sthd.co.jp